
目次

【01】事業報告

- JAPAN OSAKA 留学フェア in インドネシア
- 堺市コミュニティ通訳ボランティア研修
- OFIX共催による外国人相談会
- 「地震・津波を体感しましょう」の開催

【02】大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業

【03】国際理解教育外国人サポーター紹介

【04】大阪府外国人情報コーナー

- 日本語の勉強

【05】JICAボランティア活動報告

- 世界で活躍する大阪人
シニア海外ボランティア (フィジー共和国／上水道) 野崎 肇

【01】事業報告

■ JAPAN OSAKA 留学フェア in インドネシア

去る5月にOFIXの選考で選ばれた4人の交流生は6月から9月まで、大阪留学プロモーション事業「JAPAN OSAKA 留学フェア in インドネシア」のインドネシア学生交流事業に参加するための準備を進めてきました。うち2名の交流生は9月20日のバンドンエクスチェンジ (インドネシア教育大学)、21日のフェアイベント (バンドン工科大学) に参加しました。フェアでは大阪の魅力を紹介するパネルの展示やビデオを放映するとともに、日本での留学生活体験談や奨学金についてのセミナーを行いました。また、日本での留学生活についてのパネルディスカッションに参加したほか、留学相談コーナーでは日本への留学を希望する現地の学生からの質問に答えました。

交流生の報告

○アイリーン プトリ スリヤント

大阪大学大学院言語文化研究科 研究生

インドネシア教育大学で実施された交流会で、インドネシアと日本の先生方に梅田さんと一緒に、翌日に実施するOFIX留学相談コーナーについてPRしました。

フェアでは、梅田さんと2人でパネルディスカッションに参加し、日本への留学のための勉強の仕方や大阪での留学生活について話しました。1千人以上の聴衆の前で初めて話をし、緊張して仕方あり

ませんでした。前列に座った学生さんたちの「うん、わかった」というような表情を見て、「自分の言いたいことを相手に理解してもらえた。」と感じ、心が鎮まりました。

パネルディスカッションの後は留学セミナーを行いました。約40人の学生がセミナールームに入り、満席になりました。大阪での留學生活と奨学金について話しました。質疑応答に移ったら、多くの学生さんが質問されたので、留學に関する関心の高さに驚きました。質問内容は、大阪での留學生活や宗教、奨学金に関するものでした。

また、OFIX留學相談コーナーでは、たくさんの学生の質問や相談を受けました。どのようにして日本語を勉強したのか、どのような留學生活を送っているのか、大学では何を学んでいるのか、といった質問がありました。具体的に自分の経験や生活について話せたので、学生にうまく伝えることができたと思います。

この事業に参加して、自分が今までに体験したことを多くの人たちに伝えることができ、とても満足しました。また、インドネシアの学生が何を求めて日本に留學するのか、留學するために何が必要なのかを理解できました。日本とインドネシアとの架け橋になれて最高の経験ができたと思います。

○梅田 彩香 大阪大学外国語学部 インドネシア語専攻

一番印象に残っているのは、たくさんのインドネシアの学生が日本に興味を持っていたことです。留學セミナーに来ていた学生の質問は、奨学金の制度や日本語検定の資格の有無など現実的な内容が多く、真剣さが伝わってきました。また、通訳のインドネシア教育大学の学生やバンドン工科大学で理系分野を専門にしている学生は日本語をととても流暢に話していました。同年代の学生が、同じように外国の文化を勉強し活用していることは私にとって刺激になりました。さらに、日本のアイドルやアニメの人気を実際に肌で感じ、その熱狂的な様子に驚きました。いわゆるコスプレをした学生がたくさんいて、そのなかにはムスリムの女子学生もいました。インドネシアらしいイスラム教のあり方のひとつなのかもしれないと感じました。あっという間の3日間で、言葉では表現できない貴重な体験をしました。

■ 堺市コミュニティ通訳ボランティア研修

OFIXと堺市が共催で、堺市の外国人の方が安心して暮らせるように、コミュニケーションの橋渡しをするコミュニティ通訳ボランティアの養成を目的とした研修を9月7日（日）に実施しました。参加者は31名

研修では（公財）兵庫県国際交流協会 スペイン語相談員 村松紀子氏を講師に招き、コミュニティ通訳の活動内容や心構え、またケーススタディ等をそれぞれの活動レベルや経験に応じて教えていただきながら、模擬通訳体験（ロールプレイ）も行いました。難しい行政用語に戸惑うことや、緊張のあまり言葉が出てこないということもありましたが、参加者一人ひとりにとって学びの多い演習となりました。

参加者の様子や感想は、11月中旬に発行の「堺市国際ボランティア

ニュース『おにぎり』第8号」に掲載いたしますので検索して、ご覧ください。

■ OFIX共催による外国人相談会

外国人の方が、より身近な地域で相談できる場所を提供するため、OFIXと市町村国際交流協会との共催で外国人住民向け相談会を開催しました。

○（公財）とよなか国際交流協会

とよなか国際交流協会では常設的に相談窓口を開設していますが、今回は豊中市立野田小学校で「外国人一日相談&情報サービス」を10月25日（土）に開催しました。弁護士、医師、行政書士、教育関係者などを迎え、とよなか国際交流協会やOFIXのボランティア通訳（9言語）の協力を得て、外国人の方からの相談を受けました。当日は小中学生向けの多文化体験教室や国際理解教育プログラムを同時開催し、多くの市民の方が会場に来られました。

○（特活）泉佐野地球交流協会

10月28日（火）には泉佐野地球交流協会と共催で市の教育委員会や教育研究協議会の協力を得て、教育や子育て支援、生活一般に関する相談会を開催しました。

同様の相談会は11月18日（火）には池田市役所で、1月25日（日）には吹田市国際交流協会でも予定しています。

■「地震・津波を体感しましょう」の開催

岸和田市国際親善協会

10月19日（日）、大阪市立阿倍野防災センターと津波・高潮ステーションにむけて、外国人と日本人それぞれ20名を乗せたチャーターバスが岸和田駅前を出発しました。

想定外と表現されるほどの様々な自然災害が日本列島で発生している昨今、近隣に居住する外国人の方にとって、疑似体験と予防を兼ねたよい学習の機会の企画です。

阿倍野防災センターでの「震度7地震体験コーナー」の印象は実に強烈でした。「応急救護コーナー」では、すぐに実践に使えるノウハウを教えてくださいました。その他のコーナーも含めて10近くのコーナーで体験できたことはたいへん有意義でした。

津波・高潮ステーションでは、たまたま数日前に台風19号が岸和田市付近に再上陸したこともあって、より身近に感じられる体験ができました。特に「津波災害体感シアター」の映像は臨場感迫るもので、もしもの時に必ず役立つと思われます。

両施設では、係員の方に説明していただき、外国語を母語とする見学者（5カ国）にも理解しやすいやさしい日本語に置き換えてお話ししていただきました。

アンケートでは、「役立つ体験をいただきました。」という意見が多かったです。

【02】大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業

今年で22回目を迎えた大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業では、アジア7カ国8名の建築・芸術を専攻する研修生を迎え、今回で研修生数が200名を超えました。期間は9月25日から10月24日まで。この事業は建築家・安藤忠雄氏がデンマーク・カールスバーグ社の第1回国際建築家賞を受賞された時の副賞と、当事業の趣旨に賛同された企業の協賛金をもとにアジアの若者に日本の建築や芸術等を学ぶ機会を提供することにより日本文化等に対する理解と関心を深め、母国の建築・芸術の発展に寄与することを目的としています。

今年からスタートした大阪府研修では、都市計画や開発許可、建築確認などの制度、ランドデザイン等を学び、大阪市や富田林市の協力を得て、再開発事業や文化財保護の現地を視察しました。

大林組、銭高組、竹中工務店、大和ハウス工業での10日間の企業研修では、最新技術の説明、工事現場視察や設計部でのデザインワークなど各社様々な研修内容のもと、熱心なご指導をいただきました。

テレビ放映もされた安藤忠雄氏への表敬訪問では、「リスクを恐れず、夢を持って挑戦せよ。」と激励いただき、研修生にとって一生の思い出となる素晴らしい機会でした。司馬遼太郎記念館や淡路夢舞台等の見学は安藤建築について深く学ぶ貴重な経験となりました。さらに、今年は香川県のベネッセアートサイト直島を訪れ、瀬戸内の豊かな自然と人々の伝統的な生活に現代アートと建築を融合させた安藤忠雄建築のエッセンスを堪能しました。

また、建築の専門分野では、「持続可能な地球環境における建築の再建と保存」をテーマに研修生一人ひとりが考え、プレゼンテーションを行い、活発な意見交換とアカデミックな討論が行われました。

さらに、近畿大学の建築専攻の学生との交流会では、テーマに沿ったグループごとのプレゼンテーションをとおして、交流することができました。

ホームステイでは、日本の家庭や文化を体験するとともに、多くの思い出をつくることができました。

約1カ月間のこの事業は多くの方々にご協力いただき、研修生も建築だけでなく大阪の文化や人に触れ多くを学ぶ機会となりました。

研修生からの感想

安藤氏表敬訪問について（上海研修生）

思っていたより安藤先生は気さくにいろいろなお話をしてくださいました。世界における日本の将来像について深い考えをお持ちで、上海でのプロジェクトにおけるいきさつやアイデアについて話していただき光栄です。

プログラム全体をとおして（ネパール研修生）

様々な講義、視察研修やプログラムを通して、多様なスキルを身につけることができました。また日本文化、伝統、芸術そして建築について経験し学習することができ、実りの多い絶好の学びの場となりました。

【03】国際理解教育外国人サポーター紹介

O F I Xでは、国際理解教育を推進するため、大阪で学ぶ留学生等を国際理解教育外国人サポーターとして現在80人（21カ国・地域）登録しています。今回はそのうちの3名の留学生を紹介します。

■ 周 宇（中国） 関西大学大学院東アジア文化研究科 文化交渉学専攻

中国の重慶から来ました周宇です。関西大学大学院修士課程の2年生です。日本に来て1年になりました。重慶は三國誌の蜀というところ。山が多くて、長江が通っているので、自然がとても綺麗です。重慶市の別称は「不夜城」で、夜景が有名です。そして、重慶と四川は四川料理の故郷です。そのなかでも、麻婆豆腐、回鍋肉、担々麺などが、日本で良く知られています。

先日外国人サポーターとして守口小学校に派遣されました。子どもたちと一緒に交流ができて最高に楽しかったです。子どもはかわいくて純粋で、大好きです。「私の中途半端な日本語を分かってくれるかな。」と心配で、前の晩は不安でよく眠れませんでした。しかし、日本語はうまくなくても、心を込めて、一緒に楽しく交流すれば十分です。楽しい時間はあっという間に終わってしまいました。異文化への理解を教えるこの活動を行っておられる先生方に感心しました。素晴らしい思い出になりました。

私はこれからも国際理解教育の授業で、中国の内陸や川の景色と、中国の少数民族に関すること、風俗・衣食住・踊りなどについて紹介したいと思います。

■ グエン ティ ヒエン ルオン（ベトナム） 大阪大学経済学部 経済学専攻

ベトナムから来たルオンです。現在大阪大学経済学部3年生です。2011年4月に来日しました。日本のラーメンが大好きです。

今年の6月に外国人サポーターとして小学校に派遣されました。子どもたちに母国について紹介するのは、初めてではなかったのですが、自分で面白いなと思う内容を決めて紹介することは初めてでした。子どもたちがベトナムに関心をもって、事前に調べたことを聞いて、感動かつ感激しました。ふり返って考えると、私はその子どもたちと同じぐらいの年だった時は、そのような行動力と好奇心はありませんでした。日本の子どもは幼い頃から外国の文化を理解しようとするような精神を持っていることに感心しています。きっと将来グローバル人材になるであろうと思っています。

学生として、大きなことはできませんが、ベトナムの文化、そして日本との違いなどについて紹介できます。ダンスが苦手なので、ベトナム人の伝統的なダンスはできませんが、ベトナム語の歌や子

どものゲームやベトナムの一般家庭料理の作り方も教えられます。これらのことを日本の子どもたちに教えたり伝えたりできれば、きっとお互いの文化への理解を深めることになると思います。

■ パンクラートワ スネジャーナ (ロシア) 大阪大学外国語学部 日本語専攻

大阪大学外国語学部2年生のパンクラートワ・スネジャーナです。日本に来てから3年目です。日本に来る前は日本といえば、お辞儀、日本企業、芸者ぐらいしかイメージできませんでした。日本に来てからは、以前持っていた単純なイメージを直すことができました。その一方で、ロシアは寒い、遠いと思われるのではないのでしょうか。母国をもっと広い観点から見ていただきたい気持ちから外国人サポーターになりました。今年の9月に八尾の高校で母国を紹介して、思ったより私の国に詳しい生徒さんがいたので驚きました。

これからも国際理解教育では、また母国を紹介したいと思います。日本とロシアの共通性はどこにあるか、ロシアの四季ごとの天気はどうか、ロシアで何が礼儀とされているのかなどについて考えながら、ロシアに少しでも親しんでみませんか。

【04】大阪府外国人情報コーナー

■ 日本語の勉強

情報コーナーには日本語を勉強したいという様々な方からお問合せがあります。日本語能力試験にチャレンジしたいという方、集中的に勉強して就職に活かしたいという方、小さい子どもがいるため、子ども連れで勉強できる場所を探している外国人のお母さん、来日したばかりの子どもが通える教室を探している方等、目的は様々ですが、皆さん真剣に日本語を勉強したいという気持ちが伝わってきます。

大阪府内には色々な日本語学校や日本語教室があります。日本語学校は定められた授業料を支払い、短期または長期間で日本語を学ぶ施設です。一方日本語教室はNPO、ボランティア、国際交流協会などの団体が提供している日本語学習の機会です。1週間1～2回のペースで学んでいくことが一般的です。日本語教室の情報に関しては、地域の国際交流協会や情報コーナーで提供しています。一度お問い合わせください。また、下記のサイトから大阪府内の日本語教室を検索できます。

「おおさか識字・日本語センター」を検索し、「きょうしつをさがす」をクリックしてください。

【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間 : 9時から17時30分 (月曜から金曜)

相談直通電話 : 06-6941-2297

対応言語 : 英語、韓国・朝鮮語、中国語

ポルトガル語、スペイン語、タイ語

フィリピン語、ベトナム語、日本語

【05】 JICAボランティア活動報告

■ 世界で活躍する大阪人 シニア海外ボランティア（フィジー共和国／上水道） 野崎 肇

【JICA ボランティアに応募した動機について】

在職中はどちらかといえば図面や機械を相手に仕事をしてきたので、退職後は直接人に接し、喜んでもらえるボランティア的なことができると考えていました。そんなとき広告でJICA シニアボランティアのことを知り、ぜひ途上国の人のために貢献してみたいという気になりました。自分の経験やスキルが生かせることはうれしいことですし、また「日本人として誇りを持ちながら、現地の人とともに」という言葉に共感し応募を決めました。初めての海外生活のなかで現地の人々の役に立ちながら、同時に自分自身もいろいろな面で成長していきたいと思っています。

【フィジーでの生活や活動について】

フィジーはニュージーランドの北に位置する小さな島国です。総面積は日本の四国と同じくらい、人口は85万人、堺市とほぼ同じです。年中最高気温が30℃程度の暖かい気候で過ごしやすく、市場にはいつでもパイナップルやパパイヤなどが並んでいます。ここの産業はサトウキビと観光。まわりの美しい島々を含め海外から多くの観光客が訪れます。

ここフィジーでのJICA ボランティアの活動は、学校教師、環境教育、農業指導、水産指導など教育や産業育成などが主になっています。そのなかで私は現地の下水道システムの改善に取り組んでおり、特に漏水の削減がメインテーマです。現地の漏水率は約50%、作った水の半分が漏れており、これをなんとかしようというのが私の仕事です。

フィジーの水道は全て高低差を利用した自然流下方式なので水道施設は山の上にあります。

【これからの活動について】

フィジアンはみんな陽気でにぎやか、フレンドリーです。仕事はゆっくりですが、きちんと責任を持って実行します。私も彼らと一緒にあせらず、ゆっくりそして楽しく活動しています。水道が改善され村民の家に水がくるようになるとみんな大喜びです。この笑顔をひとつでも多く見られるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

ところでフィジーで盛んなのはやはりラグビー、セブンス（7人制ラグビー）世界大会にも連続出場しています。今回初参戦する日本チームの次にフィジーも応援してくださいネ。

編集後記

●最近初めて韓国に行ってきました。日本に一番近い国で、似た部分はたくさんあるだろうと思って行ってみたら、発見した多くの違いに驚きました。たとえば、韓国の人はよくスキンシップを取ることです。これだから、海外へ行くことは楽しくてたまりません。皆さんも海外に行くときは風景とおみやげだけではなく、人と文化にも目を向けて、ふれてみてください。（Tan）

